

## 地域の強みを生かした観光誘客のための道路事業

～日本一星空と花桃がきれいな村での光る歩道整備～



さくら い よし ひろ  
櫻井 良博\*

現在長野県では、地域戦略推進型公共事業として、地域と連携しながら戦略的に社会資本整備を進める「地域発のインフラ整備」を進めている。本稿では、日本一「星空」と「花桃」がきれいな村において、観光誘客につながる地域の強みを生かしたインフラ整備事業を紹介する。

### 1. はじめに

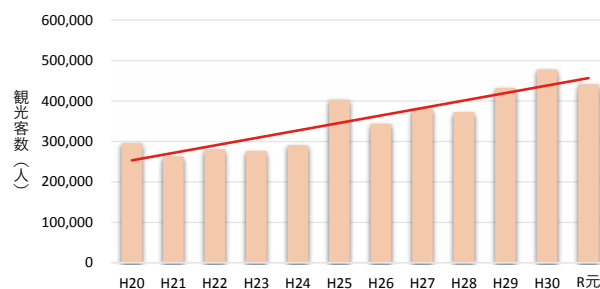
奈良時代より、古今和歌集や万葉集に詠まれている歌枕の地であるとともに、長野県歌「信濃の国」において「尋ねまほしき園原や」（「園原」：阿智村の地区名）と歌われている長野県屈指の名勝地を有する阿智村をご存知だろうか。

阿智村は長野県南部に位置し、人口約6,200人の村である。阿智村には南信州最大の温泉郷である「屋神温泉」や、信州らしさが実感できる風景を選定した「ふるさと信州風景100選」に選ばれた「花桃の里」、360度の眺望が楽しめる「富士見台高原」などといった観光資源を有しており、県内外から多くの観光客が訪れている（写真－1）。



写真－1 阿智村の観光地（屋神温泉）（出典元 阿智村）

また、当村は環境省が主催する「全国星空継続観察」において、平成18年度に「夜空の明るさをもっとも星空の観察に適している場所」に選ばれ、信州においても特に自然豊かな観光地として、年々観光客数を伸ばしている（図－1）。



図－1 花桃の里がある阿智村園原の里の観光客数（長野県観光部山岳高原観光課観光地利用者統計調査結果より）

さらに、平成24年には日本一の星空を地域や観光の活性化に生かし、誘客推進することを目的とした「スタービレッジ阿智誘客推進協議会」が設立され、同年8月から南信州屈指のスキー場である「ヘブンスそのはら」を舞台とした「天空の楽園日本一の星空ナイトツアー」（以下、「ナイトツアー」という。）がスタートし、さらに観光客の増加につながった（写真－2）。



写真－2 阿智村の星空（出典元 阿智村）

\*長野県 飯田建設事務所 整備課 整備第四係 課長補佐兼整備第四係長

このように観光面での需要を高めるなか、南信州ではリニア中央新幹線や三遠南信自動車道路などの整備が進んでおり、将来的に、ヒト・モノの交流が飛躍的に増大することが期待されている。

本稿では、このような背景を踏まえ、阿智村や地元観光協会と連携し、地域の「強み」を生かした観光誘客のためのインフラ整備事業について紹介したい。

## 2. 地域特性に合わせたインフラ整備

今回、事業を行った阿智村智里西地区は、前述した「花桃の里」や星空観察を目的に、年間約45万人の観光客が訪れる観光名所となっている（写真－3）。



写真－3 花桃の里（智里西地区）  
（撮影者 中田 大慈）

### 1) 整備前の状況

花桃シーズンである4月末頃には周辺道路に車両が約2万台流入し、期間中は常に混雑した状態が続いているが、歩道が未整備の区間については、歩行者のための通路を車道を狭めて確保し、結果として車両のすれ違いに支障をきたしていた（写真－4）。



写真－4 観光シーズンの様子（整備前）

### 2) 設計計画

本事業は、平成30年度長野県建設部施策方針の一つである「地域戦略推進型公共事業」に則り、行政機関である阿智村や、地域の観光運営を行う屋神観光協会、「ヘブンスそのはら」と協議し、花桃シーズンだけではなく、年間を通じて星空観察に訪れる観光客にも楽しんでもらえるよう、より魅力的な歩道整備を目指し、設計を行った。

#### (1) 景観に配慮した設計計画

長野県内有数の観光地である善光寺参道も参考に、地元委員会との協議検討の結果、車道と歩道の視認性の向上や降雨時等のすべり止め対策、景観との調和を考慮し、「自然石舗装（樹脂性舗装）」を採用した。また、舗装色についても、完成予想パース図を作成し、関係機関と協議し決定した。さらには、バリアフリー化やイベント会場としての利用、駐車場増設など沿線の将来的な土地利用に対応するため、歩道をフラットな構造とし、「着脱可能なボラードによる歩車道境界」を採用するなど、観光地にふさわしい歩道に留意の上、計画を行った（写真－5）。



写真－5 完成後の歩道（昼間）

#### (2) 観光資源としての地域の「強み」を盛り込む

上記に加えて、花桃の里は「ナイトツアー」の舞台である「ヘブンスそのはら」の入口にも位置しており、シーズン中には夜間のライトアップイベント等を実施していることから、歩道舗装面へ「蓄光石」を埋め込み、夕刻から夜間においても散策を楽しんでもらうよう工夫を行った。

蓄光石とは、太陽光などの紫外線を吸収し、半永久的に蓄光と発光を繰り返す性質を有している

(写真-6)。蓄光石の種類は大きく3通りがあり、セラミックでできたもの、樹脂に蓄光顔料を焼き付けたもの、樹脂に蓄光顔料の塗料を塗ったものが存在するが、本施工箇所においては、野外で用いることから、劣化等を考慮の上、セラミック素材を採用した。

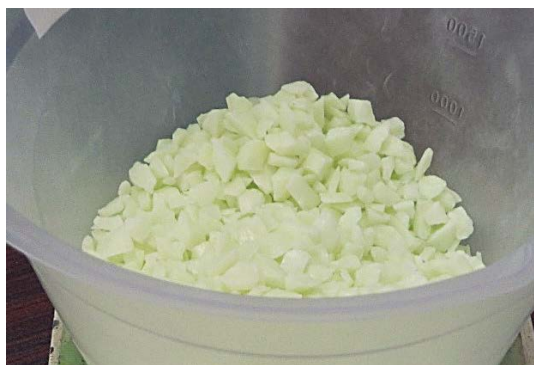


写真-6 蓄光石

舗装のデザインは、試作でサンプルを作成し、地元委員会や有識者と協議を重ね、星の明るさや、大きさ、線の太さなど細部に渡って試行錯誤の上、決定した。また、日本で見る事ができる主要な12星座に加え、オリオン座やカシオペア座などを選定の上、歩行者動線順に、春→夏→秋→冬と季節毎に足を止めて見る事ができるよう工夫し、星座を配置した。さらには観光地との融合を考慮し、随所に花桃を模った模様を散りばめた(写真-7)。

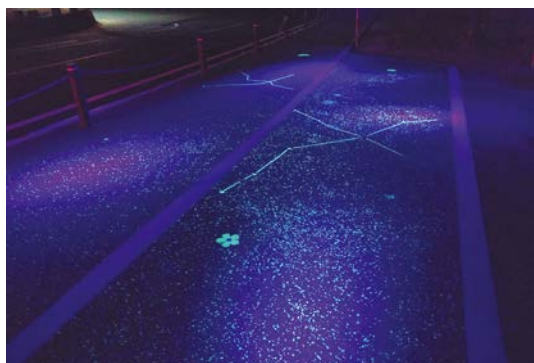


写真-7 完成後の歩道(夜間)

### 3) 整備後の状況

歩道工事は、令和元年7月から令和2年3月にかけて実施したが、竣工直後の花桃シーズンは、全国で緊急事態宣言が発令された時期と重なり、イベントが中止となったため、残念ながら観光客の姿は少

なかった。なお、本年度の花桃シーズンは、イベントの開催は中止となったものの、観光客は、整備された歩道で足を止め、花桃の写真を撮り、楽しんでいる姿が見受けられた(写真-8)。

#### 【工事概要】

歩道設置工 L=266m W=2.5m

表層工(蓄光石アート舗装) A=627㎡

着脱式ポラード L=230m



写真-8 花桃の里(整備後)

### 3. 今後の展望

現在、新型コロナウイルスの影響で先行きが見えないが、設計当時に計画していた、阿智☆昼神観光局によるイベントや、ヘブンスそのはらナイトツアーなどと連携し、今回新たに整備した「光る歩道」の観光資源としての活用を検討している。また、より快適に滞在できる観光地を目指し、関係機関と連携の上、ビューポイントの設置や歩道の延伸、道路の改良等、さらに検討を進めてまいりたい。

### 4. おわりに

本事業は、参考となる事例が少なく、関係者による協議や試作を重ね完成に至った。改めて、関係された皆様に感謝申し上げたい。

なお、本稿作成中は、新型コロナウイルスの感染が拡大しており、本来予定していた観光での活用が十分にできていない状態であった。今後、新型コロナウイルスが収束し、多くの皆様に来訪して現場を見ていただきたい。

#### 【著者紹介】 櫻井 良博(さくらい よしひろ)

昭和46年生まれ。日本大学理工学部土木学科卒。平成7年に入庁。松本建設事務所整備課主任、長野建設事務所計画調査課主査、長野県企業局水道事業課担当係長等を経て現職。